

6月になりました。衣替えの季節です。気分一新といきたいのですが、6月は祝日が一日もなく、梅雨もはじまりあまり嬉しい月とは言えないかもしれません。とはいえ雨のなかのアジサイなどはきれいなものです。どんなときにも楽しさ忘れず。今月も、ネットワークの活動の報告とこれからの予定をお送りします。

◆ 目次

【 1 】 最新活動報告

5月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

6月とそれ以降の活動予定をまとめて掲載します。夏休みの経済教室のプログラムを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

■東京部会 (No.49) を開催しました。

日時：5月17日(木) 19時00分～21時30分

場所：日本大学経済学部7号館13階会議室B

内容：参加17名。夏の経済教室のプログラム確定、行列をテーマにした教材の検討、宮尾先生紹介の教材の検討、参加者全員の近況報告などをおこないました。なお、内容の詳細に関しては以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo049report.pdf>

■札幌部会 (No.3)を開催しました。

日時：5月19日(土) 14時30分～16時30分

場所：北海道教育大学札幌校 サテライト教室 (Sapporo55ビル)

内容：参加者15名。川瀬先生よりこれまでの経過と今後の研究の方向が提示された後、篠原代表による「経済を通して学ぶ歴史?江戸時代の経済政策」の講演がありました。その後、新井より実践報告、登別明日中等教育学校の吉川先生より「ESD・国際理解教育とかかわる経済教育の一例」の報告がありました。松沢先生の実践報告は時間の関係で次回回しとなりました。次回は9月1日予定です。詳細は以下のHPをご覧ください。

■京都部会 (No.14)を開催しました。

日時：5月25日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 光塩館 2F 第二共同研究室  
内容の詳細に関して

---

## 【 2 】 イベントカレンダー

---

これからの主な予定を日程順に掲載します。また、確定した夏の経済教室の内容を掲載します。

### ■東京部会 (No.50) を開催します。

日時：6月12日(火) 19時00分～21時30分

場所：日本大学経済学部7号館13階会議室B

内容：夏の教室の最後の詰め、教材提案など

参加方法の詳細に関しては以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo050flyer.pdf>

### ■夏の経済教室の、案内を送付と受付がはじまります。

夏の経済教室の内容が確定し、案内の情報が東京証券取引所のHPでアップされ、受付がはじまりました。また、各学校へ案内状の送付が始まっています。ネットワークの以下のHPを経由して申し込むことができます。また、東京証券取引所のHPから直接申し込むこともできます。東証のHPは以下の通りです。

<http://www.tse.or.jp/learning/education/kyoin/natsu-keizai/index.html>

### ■夏の経済教室の新しい情報です。

#### (1)東京高校に、福田慎一先生が講義。

福田先生は、マクロ経済学、金融専攻の経済学者です。東京大学経済学部卒業、イェール大学大学院経済学部博士課程 Ph.D。一橋大学経済研究所、東京大学大学院経済学研究科助教授等を経て、現在、東京大学大学院経済学研究科教授をされています著書に、『入門・マクロ経済学(第4版)』(共著 有斐閣)、『演習式 マクロ経済学・入門』(共著 有斐閣)などがあります。経済政策への提言も積極的になさっています。講義では、国民所得を中心に、マクロ経済学の基本的な考え方を講義いただく予定です。

#### (2)東京中学に、松井彰彦先生が講演。

松井先生は、ゲーム理論、理論経済学専攻です。目黒区立東山中学校、東京大学経済学部卒業、ペンシルバニア大学経済学部助教授等を経て、現在、東京大学大学院経済学研究科教授をされています。著書に、『慣習と規範の経済学』(東洋経済新報社)、『市場(スーク)の中の女の子』(PHP出版)、『高校生からのゲーム理論』(ちくまプリマー文庫)などがあります。専門の研究とともに、中高の教育にも強い関心をもたれていて、高大の連携や震災後の教育面からのサポートなどをなさっています。講演では、専門のゲーム理論を踏まえた経済教育への提言などが期待されています。

### ■法教育シンポジウムを後援します。(既報)

ネットワークでは、法に関する教材開発研究会が開催する「シンポジウム・新学習要領に

おける「法教育」のあり方を問う」を後援しています。また、中川雅之先生（日本大学経済学部教授）が指定討論者で登場します。

日時：2012年6月17日（日） 13:00～16:30

場所：千代田区立 日比谷図書館文化館 スタジオプラス

参加方法など詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/WS,Sympo/20120410%20Symposium%20Law%20edu..pdf>

■経済学勉強会「目からうろこの経済学」を開催します。

日時：6月30日（土） 10時00分～17時00分

場所：日本大学経済学部7号館13階会議室B

内容：「市場の効率性」をしっかりと理解するために、ミクロ経済学の基礎的な考え方を篠原代表が講義をします。夏の教室よりやや高度な内容となる予定です。

参加方法など詳細は以下のHPをご覧ください。

■関連団体の動き

(1)「NRI 学生小論文コンテスト」を応援しています。

野村総合研究所が毎年開催している「NRI 小論文コンテスト」が本年度も実施されます。大学生の部は「あるべき社会の姿と私たちの挑戦」、高校生の部が「私たちがすべきこと、できること、やりたいこと」のテーマで小論文を募集しています。

経済教育ネットワークでは、このコンテストを応援しています。コンテストの内容、応募方法は以下のHPをご覧ください。<http://www.nri.co.jp/publicity/contest/index.html>

(2)近現代史教材授業づくり研究会 第14回大会（2012/07/28&07/29）

(3)第28回授業のネタ研究会 IN 関西（2012/08/26）

ともに、ネットワークメンバーの河原先生、奥田先生が主催、参加されている研究会です。夏休みに研究大会、例会を開催します。関心のある先生方はご参加ください。参加方法は、それぞれ以下のHPをご覧ください。

近現代史教材づくり研究会

<http://www.econ-edu.net/announcement/neta/2012KinGendai14th%20.pdf>

授業のネタ研究会

<http://www.econ-edu.net/announcement/neta/28th%20neta20120826.pdf>

---

### 【 3 】授業のヒント

---

「文化祭で経済学習を」

文化祭は、特別活動に分類されますが、とりくみそのものは総合学習そのものです。内容も展示、演劇、クラブの発表など多彩ですが、クラス参加では苦勞される先生も多いのではと思います。「めんどくさい」「わたしはやりたくない」などの声を抑えて何とか形を作るのが大変

で、生徒の文化祭ではなく、先生の文化祭だという学校も無きにしも非ずでしょう。

そういう生徒にやる気を出させるためには、モチベーションをあげることです。一番いいのは、模擬店をやらせてその収益を自分たちで分配させることですが、さすがにそれはできないでしょう。次は、収益を募金に回すことですが、その金額の多さで表彰するというのもいいかもしれません。でも、たぶんこれも無理かもしれません。学校によっては模擬店や食堂の数を制限しているところもありますから。これなら可能と思われるのは、お化け屋敷やゲームセンターのような企画で、学校内で通用する地域通貨を使わせてみることです。地域通貨のアイデアを模擬店まで広げていいかもしれません。よくコンテストの投票などをやりますが、その時に通貨の「売上高」なども表彰の対象にしてみるという手もあります。

だめだめ尽くしの文化祭ですが、お金の管理を含めて教育のチャンスはたくさんあります。帳簿の付け方、売れ残った在庫の処理の仕方、会計監査などの指導を生徒係の先生にまかせるのではなく、授業のなかで一時間でも良いから時間をとり教えることができると生徒にとっても、勉強の成果が見える形で現れるはずですよ。

アメリカでは「ミニソサイエティ」という教室を町に見立てた教材や、日本でもミュレーション教材は結構つくられています。それを考えるなら、文化祭のような体験的学習チャンスを生徒指導の観点からだけで終わらせて、消耗するのはもったいないと思いませんか。(新井)

---

#### 【 4 】 編集後記 (みみずのたはこと)

---

札幌部会に出席のために、北海道へまたお邪魔しました。去年は、北大の構内をほつつきあきました。今年は、つかこうへいの芝居のせりふではありませんが「海がみたい」と思い、札幌で下車せず、小樽まで足を延ばしてみました。札幌—小樽は快速で30分です。銭函からは海岸沿いを縫うように走ります。オー、日本海を見たぞという気分でした。小樽で下車、札幌の高層ビルを見た目には、差がおおきくてびっくりです。190万人を越す札幌と、10万人を割る小樽の差を実感しました。駅前にあるロシア語の看板も印象的です。時間がそれほどなかったもので、駅弁を買い、座席で食べ始めましたが、新千歳行きの快速は、小樽築港をでると郊外電車なみに混みだし、駅弁を食べるのは相当勇気が必要でした。築港付近は、マンションがたち札幌のベットタウン化しているとのこと。地方経済の断面を体験した感じでした。すきまの時間の有効活用でした。(新井)

=====

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====

◆◇  
編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇◆◇ —————